

2021年度 雇用者アンケート結果 報告書

1. 総括

2021年11～12月にかけて、2021年度看護学科卒業生が就職した慈恵大学附属病院および関東地方の外部施設の施設管理者を対象に雇用者アンケートを行った。附属病院の回収率は85.7%、外部施設は68.9%であった。

附属病院からの回答では、看護学科のDP1、3、5、6、7については、その能力が業務に生かされていると思う割合が概ね80%を超えており、特にDP1「主体的能力」、DP5「倫理的態度」の評価が高かった。一方でDP2「課題解決能力」は58%、DP4「地域医療連携能力」、DP8「国際的視野」は回答40%強（判断材料なしの回答を除く）の評価であり、今後の重点的な教育が必要だと考えられた。

外部施設からの回答では、DP1、3、5については、その能力が業務に生かされていると思う割合が90%を超え、DP2、6、7は70%を超える高い評価であった。一方でDP4「地域医療連携能力」、DP8「国際的視野」についてはおおむね60%（判断材料なしの回答を除く）の評価であり、外部施設から見ても、これらのDPに関しては卒業生に根づいていないことが明らかになった。

2. 概要

2021年11～12月にかけて、各附属病院の看護部長を経由して、本学の卒後1年目看護師（2021年度卒業生）を部下にもつ配属部署責任者（看護部長含む 主に師長）を対象に、自記式質問紙を送付し、同封した封筒に入れていただいて学内便で回収した。内訳は以下の通りである。

附属病院 配布数 28名 回収 24名（回収率 85.7%）

附属病院本院 就職者 20名（就職部署 17部署）

配布数 18名 回収 16名（回収率 88.9%）

葛飾医療センター 就職者 2名（就職部署 2部署）

配布数 3名 回収 3名（回収率 100%）

第三病院 就職 1名（就職部署 1部署）

配布数 2名 回収 1名（回収率 50%）

柏病院 就職者 5名（就職部署 4部署）

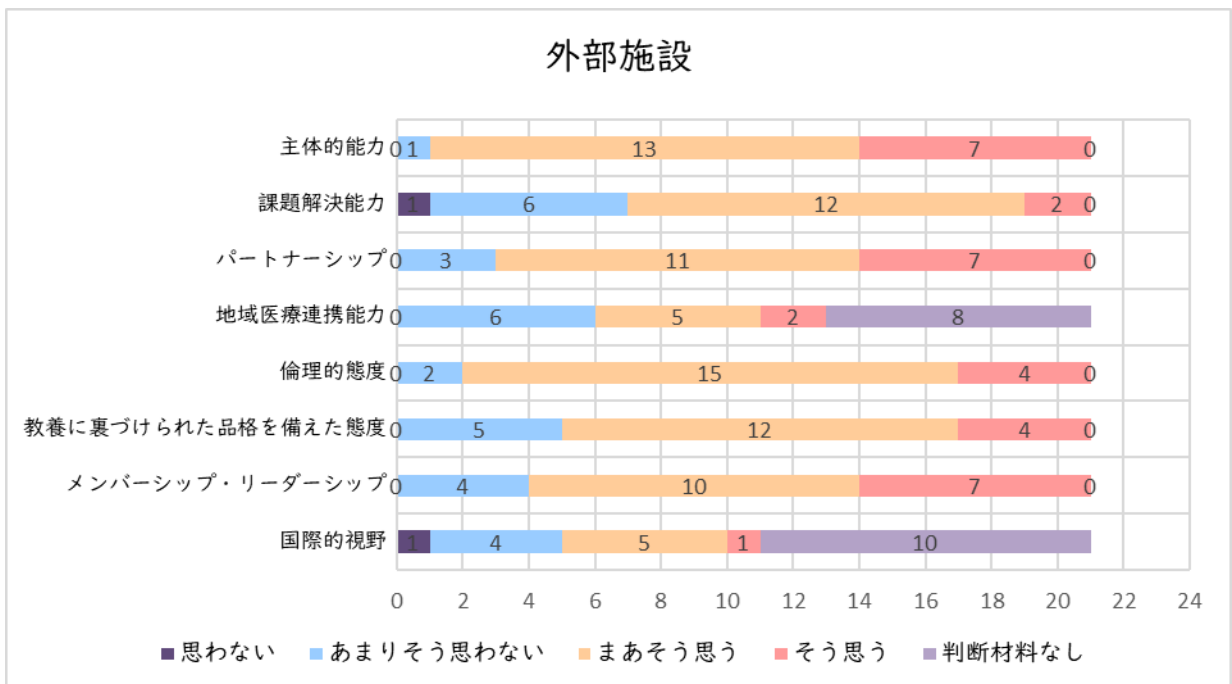
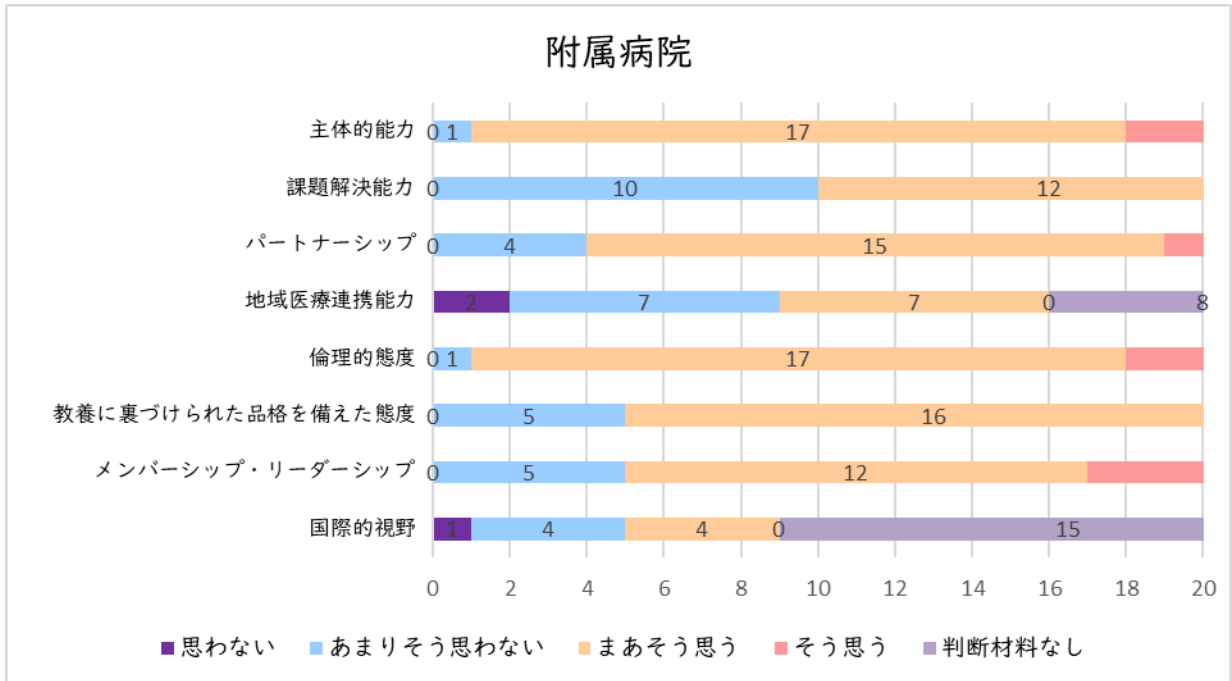
配布数 5名 回収 4名（回収率 80.0%）

外部施設には2020年11月に、2021年度卒業生が就職した附属病院以外の就職先に自記式質問紙を郵送した。記入後、切手付きの同封した封筒に入れていただいて回収した。

就職者 29名、配布施設 18施設 回収 21名施設 13施設（回収率 72.4%）

3. 主な結果

1) 看護学科で涵養している DP の能力は、卒業生の業務に活かされているか



自由記述（一部抜粋）

DP1 主体的学修能力

【そう思う】【まあそう思う】

- ・ 学習は良く行い、不明なことがあれば調べる姿を見かける（附属病院）
- ・ 担当患者の状態を事前に学習できる。e ランの活用もされている（附属病院）
- ・ 全ての課題に対して主体的に取り組み、指導・支援に沿って学びを深められている（外部施設）
- ・ 自己学習は自宅で時間を決めて取り組んでいるようです。課題の遅延もあまりないようです（外部施設）

【あまりそう思わない】

- ・ 受け身の姿勢（附属病院）

DP2 課題解決能力

【そう思う】【まあそう思う】

- ・ 先輩や上司の助言を受けて、自己課題を明確にし、取り組むことが出来ている（附属病院）
- ・ 知らない事の情報を提供することで実践につなげている。研究は取組めていない（附属病院）
- ・ 一人で解決できない事案が多いなかで、相談内容を整理し、他の職員と相談しながら課題を解決に向けている（外部施設）

【あまりそう思わない】【そう思わない】

- ・ 一年目の課題は患者を整える力を付けることで研究に取り組める余裕はなく、自己解決できることはほとんどない（附属病院）
- ・ 1つの技術が出来ても、対象や場面が異なると実践できない事があります。例えば、経管栄養の前に内服投与する場合と後に内服投与する場合など（外部施設）

DP3 パートナーシップ

【そう思う】【まあそう思う】

- ・ 他のスタッフへのクレームを患者から訴えられた時にも適切に対応できた（附属病院）
- ・ 患者への心の寄せ方、コミュニケーションで関係性を築くことは出来る（附属病院）
- ・ 同僚と良好な関係性を早期から構築出来ていた（外部施設）
- ・ 協調性有り。初めての事、知りたい、聞きたいという気持ちを表出できる（外部施設）

【あまりそう思わない】【そう思わない】

- ・ なかなかコミュニケーションをとることが難しく、報・連・相がうまく出来ない（附属病院）
- ・ 対人関係について、本人が理解している通り苦手であった（外部施設）

DP4 地域医療連携能力

【そう思う】【まあそう思う】

- ・ 現在、現場で実体験している。今後ついてくる能力と思われる（附属病院）
- ・ 大学時代に経験した団地での活動を基に、現在の連携先の活動を重ね合わせて理解を深めている

る（外部施設）

【あまりそう思わない】【そう思わない】

- ・ 知識としてはあるが、また行動に起こすには経験やスキルが未熟です（附属病院）
- ・ 部署経験が1年未満であり、連携に関わる機会が無かった（外部施設）

DP5 倫理的態度

【そう思う】【まあそう思う】

- ・ 患者の話に良く耳を傾け、思いを尊重しようとする姿は感じ取れる（附属病院）
- ・ 患者に寄り添う態度あり。入職当初、言葉遣いが気になり注意した（外部施設）
- ・ 倫理への意識は高く、「自分なら患者さんの気持ちが良くわかる。」と話していた（外部施設）

【あまりそう思わない】【そう思わない】

- ・ 忙しいことを理由に確認を省略する行動が見られた（外部施設）
- ・ 患者に声をかけずに布団をめくったり、寝衣をずらして聴診を始める事があります（外部施設）

DP6 教養に裏付けられた品格

【そう思う】【まあそう思う】

- ・ 基本知識がある。アイデンティティが確立しており、落ち込むことなく自己客観視でき次につなげている（附属病院）
- ・ 訴えが激しい相談者へも冷静に受け答え出来ている（外部施設）

【あまりそう思わない】【そう思わない】

- ・ 研修中の態度で気になる点がある。資料やハンドブックを開かずに参加する姿があった（附属病院）
- ・ 本人はそのつもりはありませんが、途中で終了したり、患者により対応が丁寧でない指摘されることがあります（外部施設）

DP7 メンバーシップ・リーダーシップ

【そう思う】【まあそう思う】

- ・ チームの一員として全体に意識を配っている（附属病院）
- ・ 気配りしながら活動し、フォロアーシップ、メンバーシップを発揮している（外部施設）

【あまりそう思わない】【そう思わない】

- ・ 自己発信や気づき、報告、相談がタイムリーではなかった（附属病院）
- ・ カンファレンスの時など輪から外れることが多く、本人も自覚していた（外部施設）

DP8 国際的視野

【そう思う】【まあそう思う】

- ・ 今後に期待（外部施設）

【あまりそう思わない】【そう思わない】

* 発揮する場がない、評価が難しいなどのコメントあり。否定的コメントはなかった。

2) 慈恵卒業生の看護としての能力の強み（一部抜粋）

附属病院

- ・ 新人なりに、身体的側面と共に個別性、社会背景などを捉えアセスメントしている。患者全体を見つめようとする姿勢である。
- ・ 専門学校生に比べると自立している感じを受ける。その他は個人の差と思う。
- ・ 患者さんに対して献身的な態度は、他大学卒をみても一番あるのではないか。
- ・ 論理的に考えるのは強みだと思います。
- ・ コミュニケーション能力にたけている点。メンバーシップ、フォロワーシップが求められる中、自らの能力を査定し、他者へ伝え、チームの一員として積極的に行動することが出来ている。
- ・ 積極的に学び取ろうとする主体性がある。集中治療部門であり、緊迫感がある中でも、意図的に目的を持って実践場面を見学することが出来た。
- ・ 患者の立場に寄り添い、良く話を聞いている。チーム内でのコミュニケーション力も長けており、積極的に周囲と声を掛け合いながら共同できる。
- ・ 患者さんに一生懸命に考えて話を聞く姿勢。先輩に比べると実践力は不十分なところがあるが、患者さんのために働く姿勢は患者さんに通じている。

外部施設

- ・ 社会人として接遇を身につけ患者さんに丁寧に接している。
- ・ じめにひとつひとつ取り組む力。すぐに結果がでない相談であっても取り組み続ける力がある。自分の活動や考えを考察でき、積み重ねが出来る。
- ・ 働くモチベーションが湧かないと悩んでいましたが、慣れるにつれて明るく、発言も増えている。人としての幅の広さが看護師としての能力に繋がっている。
- ・ 他者の意見を素直に受け入れることが出来、指導内容を知識として積み重ねることができる。
- ・ コロナ病棟になっても自分の意思で残り、一生懸命看護している姿はたくましく感じる。看護師になりたいという気持ちがしっかりあり、芯があると思う。
- ・ アセスメント力が強い。患者さんへの援助には、きちんと根拠があり、分析する力もある。

3) 看護学科の教育に対する改善点

附属病院

- ・ 1.グループダイナミクス。2.チームでやる仕事なので、同じグループで実習しているのに、協力している姿が少ない。チームでのコミュニケーション能力。
- ・ 一般的な社会人としてのマナー、言葉遣い、所作
- ・ 〈コミュニケーション技術の強化〉基礎・継続教育共に向上したいスキル。丁寧に話を聞く、相手の立場に立つ姿勢はできているが、相手の認識に迫るコミュニケーションはとれていない。
- ・ 積極性と自ら考える力

外部施設

- ・ 活動を振り返る時、出来なかった事への内省が中心となる。成長を自覚することが身につけると良い。生活場面でのフィジカルアセスメントの方法、知識があると更に良い。
- ・ 当初は、患者に対して「～だよね～」「うんうん」と言った言葉使いが気になり注意した。そのへんの指導があれば良い。
- ・ 医療安全教育
- ・ 繰り返しの課題を「面倒くさい」、インシデント対策の振返りを「どうしようもありませんか？」等、ややドライかなと感じることがある。倫理観や寄り添う心が育つことを期待する。
- ・ 社会では自分の思うようにいかないことが多くあります。それに対するストレス対応等があると良いと思います。
- ・ 患者状態の報告方法などが基礎教育であると良いと思いました。SBAR の活用、家族看護もあると良いと思いました。

4) 2021年度卒業生のスキルや能力、特徴

附属病院

- ・ メンバーシップ・リーダーシップを「支えあう」と言うよりも、能力を伸ばして、それぞれの役割を発揮する形のリーダーメンバーシップであるなら良い傾向だと思います。
- ・ チームの中に入っていき共同、協働することは得意ではないようにお見受けします。理論と言うより、人間性や育ち方なのかもしれませんが、報告・連絡・相談がなかなか難しいようです。
- ・ 座学として学んだことを活かす臨床環境ができていない。学びを臨床の中で確認することはあっても、どんなふうに結び付けて学んでいるかを確認出来ていない。
- ・ チームメンバーと意図的に関わりを取る姿があり、上半期が過ぎ、自らの意見を少しずつ表現できるようになって来ている。

外部施設

- ・ 報告・連絡・相談が的確にできる事が仕事を任せる上で大切で、充分できていた。メンタルヘルスのモニタリングもし流行時期を乗り越えることができた。
- ・ 現時点で他のスタッフと大きく変わらないが、今後のメンバーシップ行動などで期待したい。
- ・ 臆せず自分の役割を意識して働いている。「補助者のシャドーイングをしてみたい」と多職種協働の視点から提案してくることがあった。教育効果はあるように思います。
- ・ 新人教育計画に沿って業務習得ができる力を持つてる。医療安全について、確認行為がどうして大切なのか、患者・組織の両面で理解できると良い。
- ・ PNS を導入しており、メンバーシップを活用しながら業務習得している。医療安全で自分の行為がどのように影響するかなど考慮して業務できていない。
- ・ 自立した心が育っているのが良いが、全体の中でまぎれてしまう。彼女の考え、学習してきたものが発揮できるよう話を聞いていきたい。
- ・ 強化科目の内容を深めていると入職してからも活用できるのではないか。自部署に入職したスタッフは発揮出来ている場面がありません。
- ・ まだ、その能力が発揮されていない。強いて言えばメンバーシップ、連携を意識して業務して

いる。

5) 大学に伝えたいこと

附属病院

- ・ 臨床で起きるギャップが少なく出来ると良いのですが。(思い描いている姿と自分のありよう、できない自分、臨床の〇〇と理想など)何か策があればと思います。実習だけではどうにもならない。
- ・ 慈恵に就職してもらえよう頑張りたいと思いますので、ご協力お願いいたします。

外部施設

- ・ コロナ禍で実習ができないことは、人との接し方や対応力の面で影響が出ざる負えない。何か対策が講じられれば良いと思います。
- ・ 当病棟に2名就職しました。業務を覚えるスピード等差があり、自立のタイミングにも差が出ている。Q1の回答は2人を総合的に評価した。日々成長しているのは確実に期待しています。
- ・ 「働くことが/看護が楽しい」と言って生き活きと過ごしています。一緒に働く我々も多くの刺激を受けています。
- ・ 質の高さは今までの卒業生を見て感じます。是非、今後も当院へ紹介していただきたいです。

4. 課題

今回の結果では、看護学科で卒業時に求める8項目のDPのうち、「課題解決能力」「地域医療連携能力」「国際的視野」を除く5つのDPに関しては、概ね良好な評価を得られた。特に主体的能力が高かったことは、1年次から学生自身のビジョン・ゴールを設定し、自己の課題を明確にし、教員とともに目標の設定や目標を達成するための具体的取り組みを確認していくことで、看護職としてのキャリア形成のための主体的学修能力の向上に寄与したと考えられた。一方、課題解決能力は例年より評価が低かった。今年度は対象を2021年度卒業生と限定しており、入職から7か月時点での評価を行っているため、看護職として課題解決能力を発展させている途上にあると考える。また課題を探究し解決していくための研究に取り組んでいないことも影響している可能性がある。各DPの涵養を適切に評価するために、今後も卒後1年目を対象とするかについて、対象者の選定および評価方法は検討する必要がある。地域医療連携能力と国際的視野については、例年同様に十分な評価を得られなかった。今年度は「判断材料なし」という選択肢を追加したため、多くが判断材料なしを回答していた。また該当場面がなかったとしながら低く評価しているケースもあった。現在の勤務環境ではそれらの能力を発揮する機会がなく評価が困難であったことが関係している可能性がある。しかし、DP4「地域医療連携能力」、DP8「国際的視野」について、本学の教育内容が強化されていることから、今後、能力の向上に伴い、それらの能力を発揮できる職業選択につながる可能性があるともいえる。またDP4、8を主に涵養する科目に加え、様々な科目で地域医療連携能力の強化や国際的視野の拡大につながるような教育内容を工夫することも重要である。今後も調査を継続し、教育内容とDP4「地域医療連携能力」DP8「国際的視野」の涵養について評価していく。

看護学科教育に望むこととしては、社会人としての接遇や責任、倫理観を備え患者本位の看護の

必要性、コミュニケーション能力等が挙げられた。これらはDP5「倫理的姿勢」、DP6「教養に裏付けられた品格を備えた態度」、DP7「メンバーシップ・リーダーシップ」等で関連付けて考える必要がある。DPを涵養するための各科目に加え、様々な体験を通して主体的に自己を高めていけるような学生への支援も必要である。また、DP6「教養に裏付けられた品格を備えた態度」など、教育の中で身に着いた能力や態度は積極的に学生にもフィードバックし、個々の能力や態度の強化ならびに学生同士刺激し合えるような働きかけも重要である。今後も調査を継続し、教育内容を充実するための示唆を得る。